

養豚復興に向けたプロジェクトへの取組（第1報）

○中塩屋正志・下村麻衣・岩切正芳
（宮崎畜試川南）

【目的】

本県における口蹄疫からの養豚復興プロジェクトの一環として、当支場においては、衛生レベルの高い養豚地域を目指した産地づくりを支援している。

その中で、SPF豚の供給不足が想定されることから、家畜改良センター宮崎牧場が造成した発育と産肉能力の高い「系統豚ユメサクラ」を当支場において、交配・選抜を行い、養豚農家のニーズにあったハイヘルスな優良種豚の供給を行っている。また、口蹄疫の発生があった新生養豚地域に導入されている県内外のF1雌豚4系統と、止め雄としてユメサクラを用いた相性等を検討するために、繁殖成績とその産子の産肉成績を調査した。

【材料および方法】

試験1：ユメサクラの発育試験

供試豚は、デュロック種の系統豚ユメサクラ（雄15頭、雌25頭）を交配・生産された雄67頭を用い、30kgから105kgまでの肥育期間とした。

試験2：ユメサクラとの相性試験

供試豚は、民間企業4社から導入したSPF雌豚（各10頭）と止め雄として系統豚ユメサクラを用い、繁殖成績を比較した。なお、分娩期間は平成23年1月～12月であった。

また、その産子の飼養管理は、体重30kgまで場内で飼養し、30kg以降は場内と一般生産者の実証農場で肥育試験を行った。また、肥育前期飼料から肥育後期飼料への切替時期を場内では従来の飼料給与体系と同様の体重70kgとし、実証農場では厚脂等の格落ちを考慮して、体重約60kgとした。

【結果および考察】

試験1：ユメサクラ雄の発育成績については、67頭の産肉能力検定を行い、一日増体量において、家畜改良センター宮崎牧場の最終世代豚と同程度の成績を示した（表1）。

試験2：初産のF1雌豚の繁殖成績については、総産子数、哺乳開始頭数、離乳頭数、再帰発情日数において有意差が見られなかった（表2）。

産子の発育成績および枝肉成績については、出荷日齢、一日増体量、枝肉重量、枝肉歩留、背脂肪厚において有意差が見られなかったものの、上

物率においてCおよびD系統で上物率が高い値を示した（表3）。なお、平成21年度の系統間組合せ検定試験におけるLWD肉豚131頭（去勢67頭、雌64頭）の出荷日齢154.9日（出荷体重109.7kg）よりも早く、特定疾病フリーの効果が示唆された。

また、実証農場での発育成績および枝肉成績については、いずれの系統の出荷日齢、一日増体量、上物率も良好な成績を示した。

表1 ユメサクラの発育成績(雄)

調査頭数(頭)	一日増体量(g)	105kg到達日齢(日)
67	1,113.0	137.0

表2 F1雌豚の繁殖成績(初産)

	A	B	C	D
分娩腹数(頭)	10	9	9	10
総産子数(頭)	9.3	10.6	10.9	11.7
哺乳開始頭数(頭)	8.9	10.3	10.8	10.6
哺乳頭数(頭)	8.7	10.0	9.9	8.6
離乳率(%)	97.5	96.7	92.6	81.2
妊娠期間(日)	115.7	115.7	115.2	115.8
再帰発情日数(日)	4.5	5.0	5.3	5.1

表3 産子の発育成績および枝肉成績(試験場成績)

	A	B	C	D
調査頭数(頭)	12	12	12	12
出荷日齢(日)	145.2	145.8	142.3	145.1
出荷体重(kg)	112.9	113.4	110.8	112.9
一日増体量(g)	1,094.9	1,061.6	1,063.7	1,089.5
上物率(%)	66.7	50.0	91.7	100
枝肉重量(kg)	75.2	76.4	74.0	75.8
枝肉歩留(%)	66.6	67.4	66.9	67.2
背脂肪厚(cm)	2.29	2.28	1.89	1.84